

特集

障害のある人

一人ひとりの多様性が
尊重される社会へ

12月3日～9日は
障害者週間です。

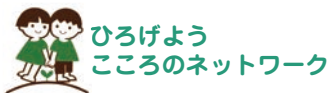
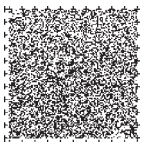
ますな

KIZUNA



INDEX

- 2 「共に生きる社会を見る」
有安 諒平さん
(株式会社東急イーライフデザイン パラローイング選手)
- 3 「「この素晴らしき世界」のために」
松岡 克尚さん (関西学院大学 教授)
- 4 「発達障害のある子どもの親同士で支える仕組み
ペアレント・メンター活動について」
井上 雅彦さん (鳥取大学医学系研究科臨床心理学講座 教授)
- 5 「コロナの下での障害者作業所の窮状」
赤松 英知さん (きょうされん 常務理事)
- 6 「eスポーツを通じた障害者就労支援」
一般社団法人 障がい者eスポーツ協会
- 7 「拉致問題の解決にむけて」
薬師寺 公夫さん (立命館大学名誉教授 世界人権問題研究センター理事・研究員)
- 8 情報paraざ



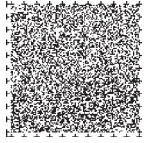
12月号には、音声コードを印刷しています。
専用の読み上げ装置で読み取ると、「ますな」
の内容を音声で聞くことができます。



兵庫県・(公財)兵庫県人権啓発協会
兵庫県マスコット はばタン

今夏のパラリンピックでは多くの感動が生まれましたが、障害のある人を取り巻く環境は就業に関する差別待遇や、店舗でのサービス等を拒否されたりするなどの人権問題が発生しています。「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」(障害者差別解消法)の趣旨を踏まえるなど、この問題についての関心と理解を深め、偏見や差別を解消していくことが必要です。

本号では、障害の有無にかかわらず、誰もがお互いの人権を尊重し合い、支え合う共生社会を実現するための社会づくりについて考えてみましょう。



特集 障害のある人

共に生きる社会を見る

株式会社東急イーライフデザイン
パラローイング選手(ボート競技)

有安 諒平 さん

若年性黄斑ジストロフィーで15歳より視覚障害が発症し、今夏に行われたパラリンピック混合舵手つきフォアに出場されました有安さんに話を伺いました。

混合舵手つきフォアとは

「多様性の象徴」とも称される種目で、多様なクルー編成が魅力の一つです。5名の選手が乗り込み、視覚障害、運動器障害の選手が混合で男女2名ずつ、残り1名の舵手は性別や障害の有無を問われません。様々な工夫や戦略で2000mの直線コースをいかに速く漕ぐかが勝負の鍵です。



パラリンピック出場で感じられたこと
まさに「多様性のるつぼ」と呼ぶのに相応しい超多様性がありました。180余ヶ国もの人々が集まり、文化、言語、生活様式、それぞれの障害特性に至るまで、本当に彩(いろど)りに溢れた空間でした。そして「パラスポーツ」という共通言語で参加者全員が一つの方向を向き、苦悩や喜びを、皆で分かち合える、とても素敵な世界



を感じる事ができました。また、日本のホスピタリティーにも感動しました。コロナ禍での混乱の最中であつた今大会では、スタッフの奮闘が大会の成功につながる要因として重要だつたと思います。今は感謝でいっぱいです。

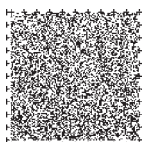
共生社会の実現に向けて

「スポーツ」は共生社会の実現に向けて大きな役割を担うと考えています。多様性を受け入れる過程での、障壁の一つは、「健常者」「障害者」などといったカテゴリー化にあります。知識としてだけの理解ではカテゴリー化の意識は根底に残ります。それを拭い、多様性包摂に向かって本質的に理解する重要な役割は、共通の目的を持って活動することだと思います。触れ合い、集団で混ざり合い、共通目的を持った上で、楽しく活動していく。より多様な人が一緒にスポーツに取り組んでいく。パラリンピックは、「障害者」の持つスポーツの可能性を最大限引き出し、共生社会実現に大きなヒントを与えてくれました。そのような中で、混合舵手つ



プロフィール

東京パラリンピックボート日本代表。パラアスリートとして、夏季はボート、冬季はクロスカントリースキーの選手として競技に取り組む。理学療法士や医学研究科の大学院生としても活動し、スポーツ・医療・研究等、多方面から「障害」に向き合う。「多様性社会の実現」をテーマに講演や執筆活動も行う。



読者のみなさんへのメッセージ
まずは今大会で応援して下さい。皆さまに感謝を伝えたいです。今後もパラリンピックに興味を持って頂けることが、全てのパラアスリートにとって、スポーツに尽力していく上での価値に繋がると思います。そしてその先に、一緒にスポーツを楽しむことができる文化が広がっていくことが私の願いです。



今後の抱負

今後はボート競技と並行して、冬季のパラクロスカントリースキーにも挑戦しようと思っています。ガイドと二人三脚で取り組み、今後もパラアスリートの可能性を広げていきたいと思っています。

「この素晴らしき世界」のために

関西学院大学

教授

松岡

克尚

さん



プロフィール

1996年より四国学院大学教員、2004年より関西学院大学社会学部教員、2008年より関西学院大学人間福祉学部教員。専門は障害者福祉、障害学、ソーシャルワーク。最近の研究テーマは「身体とソーシャルワーク」「インベアメント文化」など。

※ 感動ポルノではなく

「多様性」をテーマの1つとして開催された東京2020オリンピック・パラリンピックも幕を閉じました。パラリンピック閉会式の最後にルイ・アームストロングの「この素晴らしき世界」が手話を交えながら感動的に歌われたシーンを記憶している方は多いかもしれません。また、テレビの手話通訳に多くの関心を感じたことも今までなかったことだと思います。

ただし、多様性を土台とした「素晴らしき世界」を実現させるためにはまだ多くの課題が残されていることは否定できません。まず確認すべきこと

は、決して障害者は感動の対象ではないという事です。パラリンピックで確かに感動が得られたかもしれませんが

ん。しかし、私たち全員がオリンピックではないのと同様に、障害者の全てがパラリンピアンではなく、むしろ私たちの身近なところに障害者が存在しているという、当たり前の事実に気づくべきでしょう。世界人口の15%が障害者で身体障害者の多くは高齢者が占めており、みな私たちと同じ一市民です。そこで大事なことは、この人口の15%の人たちを特別視したり、無視したりするのはなく、隣人として受け入れることができるか、そして障害があるうがなかるうが同じ市民として共に地域社会を良くしていくこと、という態度を持てるかどうかという事になります。それが、「素晴らしき世界」を実現できるかどうかの試金石になるのは間違いないところでしょう。

障害者の人権のために

とはいえ、2016年の相模原市障害者施設殺傷事件や2020年に発覚した神出病院の不祥事などによって、優生思想や障害者の人権無視の根深さを痛感させられます。障害者虐待の件数も高止まりしている感があります(これも氷山の一角に過ぎません)。「素晴らしき世界」に向けて航海する前に嵐を予感してしましますが、僥倖がないわけではありません。例えば、セクシャルマイノリティの人たちに対する社会の認識は大きく変わつつあることに気づかれます。その道のりから学ぶことは多いのではないのでしょうか。

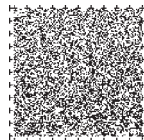
合理的配慮の法定義務化

障害者差別解消法が本年5月に改正され、事業者にも合理的配慮の提供

が3年の移行期間を経て法定義務化される運びになりました。法律が変わったからと言って、簡単に人々の意識が変わるとは思えないかもしれませんが、しかし、合理的配慮の提供の本質とは、障害者と障害のない人との「建設的対話」を行うことこそにあると考えられます。双方がじっくり話し合い、お互いに納得できる対策を講じる努力を惜しまないこと、その積み重ねこそが「素晴らしき世界」の真の実現に力を発揮してくれると信じたいものです。この「対話」への覚悟と備えこそが第一歩になるでしょう。

※オーストラリアの故ステラ・ヤング(Stella Young)が提唱した用語で、障害者が懸命に取り組む姿が、いわゆる「健常者」に感動をもたらすモノとして消費されているさまを批判する意味で用いられる。





発達障害のある子どもの 親同士で支える仕組み ペアレント・メンター活動について

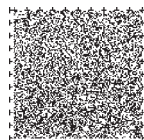
鳥取大学医学系研究科臨床心理学講座 教授

井上 雅彦 さん



プロフィール

専門は応用行動分析学、臨床心理学。臨床心理士・専門行動療法士・自閉スペクトラム支援士エキスパート・学校心理士。著書に「発達障害&グレーゾーンの小学生の育て方」(すばる舎2020)、「家庭で無理なく対応できる困った行動Q&A 自閉症の子どものための基本プログラム」(学研教育みらい2015)など多数。



発達障害とは、自閉症(自閉スペクトラム症)、ADHD(注意欠如多動症)、学習障害(限局性学習症)などの生まれ持った脳機能の発達の障害です。発達障害はその障害が一見わかりにくく、行動面や学習の困難性から、その子育てを担う親の養育ストレスも大きいとされています。発達障害の支援のための機関は増えてきていますが相談をためらっている親も少なくありません。

ペアレント・メンター活動とは

発達障害に限らず発達に遅れや偏りのある子ども親にとって、様々な悩みを先輩の親に相談できることは、高いニーズがあることが示されてい

ます。ペアレント・メンター活動とは、発達障害のある子どもの親による親のための支援活動のことです。ペアレント・メンター活動は、2010年に厚生労働省の発達障害のある子ども家族支援としての重点施策に取り上げられ、今日まで続けられています。

同じ立場の親と

メンターの相談は、専門機関で受ける相談のハードルの高さ比べ、同じ立場の親とお茶やお菓子を食べながらリラックスして話すことができ、当事者同士ならではの共感が得られやすいという特徴があります。また、インターネットにはない地域の子育てに関する情報やメンターの子育ての

体験を聞くこともできます。メンターと地域で繋がることで孤独感に陥りやすい子育てを前向きなものにしていくことができます。

メンターの活動には発達障害に関する啓発活動もあります。それは地域のPTAや商工会などの団体のニーズに応じて、発達障害の特性の正しい理解について学んでもらうためにプログラムを提供することです。

より多くの人に知ってもらおう

2018年の全国調査から、メンターの数は全国で約1700名でした。メンターは発達障害のある子ども親であれば誰でもなれるわけではなく、相談に関する基礎技術や倫理を

学んでいただく必要があります。私は日本ペアレント・メンター研究会という組織を作り、全国のメンターの養成研修や活動をバックアップしています。国は現在メンター活動を区市町村に移行するよう都道府県に働きかけており、行政職員や一般の方にメンター活動をより多く知ってもらいたいと思っています。

研究会ではメンター活動に関するガイドブックを作成していますのでぜひご活用ください。

(<https://parentmentor.jp/post/2138>)

またメンターに関する地域の情報はひょうご発達障害者支援センターにお問い合わせいただければと思います。

コロナの下での 障害者作業所の窮状

きょうされん 常務理事

赤松 英知 さん



プロフィール

1989年3月京都大学教育学部卒業。1990年4月より知的障害者通所授産施設第2さつき障害者作業所で勤務。1998年4月からは身体障害者通所授産施設つくしの里で勤務。2002年7月に身体障害者通所授産施設第2つくしの里施設長に就任。2008年6月からつくしの里施設長を兼務。平行し2005年5月からきょうされん常任理事。その後2010年4月から、内閣府障害者制度改革担当室等で政策企画調査官として障害者基本法の改正や障害者差別解消法の成立等に携わる。2014年4月からきょうされん常務理事となり、現在に至る。

きょうされんは障害のある人の働く場や暮らしの場等の連絡会で、全国約1860の事業所が加盟しています。新型コロナウイルス感染症の拡大で、多くの会員から「仕事がなくなっただ」「工賃が払えない」等の声が寄せられたことを受け、これまで3回にわたって障害者作業所の収入と工賃等の状況を調査しました。

障害者作業所の現状

感染流行から間もない昨年5月の第1回調査では、回答のあった583カ所中464カ所(80%)で生産収入が前年同月より減り、工賃も378カ所(65%)で平均約3200円(21%)の減少でした。この時期は初めて

経験する感染拡大や緊急事態宣言等の中、仕事が急になくなり右往左往していることがうかがわれました。

その後、半年経った昨年10月の第2回では、回答のあった568カ所中376カ所(66%)で生産収入が減り、工賃は269カ所(47%)で平均約1800円(14%)の減少でした。感染対策の普及で仕事徐徐に戻ってきたことや、各作業所の仕事確保のための努力の成果等から減少幅が減っています。

そして今年4月の第3回では、回答のあった535カ所中319カ所(60%)で生産収入が減り、工賃は288カ所(54%)で平均約2500円(20%)の減少でした。生産収入でいうと、感染拡大から1年以上が経過しても6割の作業所で減収が続いており、回復の見通し

がたちません。また工賃は第2回で持ち直していたのが、第3回で再び減額幅が大きくなりました。長引く減収で、障害のある人の工賃を維持できなくなっているのです。

素敵な出会いを求めて

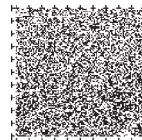
障害者作業所の工賃は決して多くありません。しかし、障害のある人にとっては障害年金に次ぐ収入であり、自分が働いたことの証です。そして、買い物やレジャー等、ささやかな生活の潤いをもたらしています。コロナは障害のある人からこうした日常を奪いました。

きょうされんは障害者作業所の置かれた状況を改善するよう政府に訴えています。併せて市民のみならず

にも、作業所の製品等の購入を呼び掛けています。身近な作業所の製品やサービスに目を向けてみてはいかがでしょうか。きつと素敵な出会いがあることと思います。そして、その出会いは障害のある人もない人も共に生きる社会への第一歩になるのではないのでしょうか。

当会の工賃等に関する調査結果の詳細はこちら
<https://www.kqsaren.or.jp/invitation/15923/>

全国の障害者作業所の製品等を集めた
当会のネットショップ「TOMO市」はこちら
<https://www.bmoichiba.jp/>



eスポーツを通じた 障害者就労支援

一般社団法人 障がい者eスポーツ協会

明石市和坂14-7 竹中ビル4F
TEL: 078-9399-2124
URL: <https://hp-e-sports.com>



「一社障がい者eスポーツ協会はeスポーツを通して引きこもりや障害がある人たちが将来への考え方や人間関係を身につけ、就労へとつながるよう、就労継続支援B型事業所オフィスカレッジ内に創設しました。施設長 田中さんと迫田さんにお話を伺いました。」

Q eスポーツとは

A 「エレクトロニック・スポーツ」の略で、コンピュータゲーム、ビデオゲームを使った対戦をスポーツ競技として捉える際の名称です。障害の有無に関係なく競技することができ、幅広い可能性を持っています。」

Q どのように就労支援へつながりますか

A 観戦者は仲間が対戦する姿を応援することにより一体感が生まれ仲間意識を持つことができます。操作者はチームの仲間と「コミュ

ニケーションをとりながらゲームを行います。」

人との交わりが苦手な方でも人と話ができるようになり、就労に向けて大切なコミュニケーション力がつき、就職にも近づくことができます。」

Q 利用されている方の様子は

A 導入する前は、仕事が終わったらすぐに帰宅し、コミュニケーションを取るようなことはほとんどありませんでしたが、導入してからは、いろいろな方とお話をしてから帰るといふように、事業所全体の雰囲気や和やかになりました。」

Q これからの活動について

A 1つ目はオンラインで全国規模の大会を行いたいと考えています。各地の事業所に拠点を置き、そこから参加できる態勢を整えていきたいと考えています。その

中から、プロのeスポーツプレイヤーが育つことを目標として、コミュニティづくりにも力を入れていきたいと考えています。」

2つ目はひきこもりの方の居場所にしたいと考えています。ゲームという特性から自分の努力した成果がすぐに表れるため、自己肯定感が増し、自信につながっていきます。また、ゲームを通して孤独を感じていた人が、人とつながることができ喜びを感じ、引きこもりから抜け出す支援ができればと考えています。」

これから障害者・ひきこもりの方が社会とのつながりを実感し、就労へつながるよう取り組んでいきます。」



映画紹介

『フォーリング 50年間の思い出』

ジョンは故郷を離れ、同性のパートナーと養子を迎えて生活しています。そこへ父ウィリスが訪れます。認知症と高齢のため、農場での一人暮らしに限界を感じ、息子の近くに新居を探すというのです。

記憶が混濁した父は、とうに離婚して今は亡きジョンの母親を呼び、それを見たジョンは父子で鴨撃ちに行った幼少期の思い出を思い出します。頑固で粗暴な父を、自分も母も受け入れていた幸せな関係。しかしやがて母は父の気性に耐えられなくなり、ジョンも父と相容れない繊細な性質に育ちます。

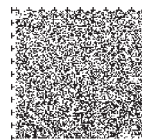
老いてなお暴言を吐き続ける父に、ジョンは感情を殺してつき合います。これまでの父の言葉を許さないでいるのです。しかし認知症の進んだ父は、家族との確執などない幸福な記憶の中に半ば生きている。ウィリスが息子の成長を受け入れなかったように、ジョンも父の老いを認められずにいるのです。監督は自身の父親の思い出を核に、近いからこそ難しい親子の機微を描き出しました。



© 2020 Falling Films Inc. and Achille Productions (Falling) Limited. SCORE

© 2020 PERCEVAL PRESS AND PERCEVAL PRESS INC. · A CANADA · UNITED KINGDOM CO-PRODUCTION

■監督: ヴィゴ・モーテンセン ■2020年/カナダ・イギリス/112分 ■配給: キノシネマ ■シネ・リーブル神戸で12月3日公開 ■お問い合わせは、078(334)2126



拉致問題の 解決にむけて

立命館大学名誉教授
世界人権問題研究センター理事・研究員

薬師寺 公夫 さん



プロフィール

岡山県総社市出身。神戸商船大学(助教授)、立命館大学法学部(助教授・教授)、立命館アジア太平洋大学(教授)、立命館大学法務研究科(教授、特任教授)を経て2021年3月に退職。強制失踪条約強制失踪委員会元委員。論文に、「強制失踪条約に関する自由権規約委員会の先例法理の到達点と強制失踪委員会の課題」(芹田健太郎ほか編『実証の国際法学の継承』43-89頁(2019年))、「強制失踪条約における『強制失踪』の定義とその国内犯罪化義務」(世界人権問題研究センター『研究紀要』24号、1-45頁(2019年))など。

一刻も早い帰国を求めて

1970年代から1980年代にかけて、多数の日本人が北朝鮮工作員等によって自らの意思に反して北朝鮮に連れ去られました。日本政府は17名を拉致被害者と認定しており、兵庫県では有本恵子さん、田中美さんが含まれています。さらに拉致の可能性を排除できない方が875名(2020年10月現在)おられ、政府はすべての拉致被害者の一刻も早い帰国を求めています。

拉致問題の現状

2002年9月の日朝首脳会談で、金正日国防委員長(当時)は、長年否定していた日本人の拉致を初めて認め謝罪しました。同年10月、拉致された日本人のうち5名について

日本人のうち5名については帰国が実現しましたが、他の被害者については未だに安否が不明なままです。北朝鮮当局は、他

の拉致被害者は「死亡」した又は「入境せず」として、拉致問題は「解決した」と主張していますが、例えば「死亡」の根拠は極めて不自然で全く納得できないものです。2014年5月の日朝政府間協議の結果、北朝鮮当局は、拉致被害者を含む同国の日本人の包括的調査を約束し、特別調査委員会を設置しました。しかし、2016年1月の同国の核実験と2月の弾道ミサイル発射等を受けて日本が独自の制裁措置を発表すると、北朝鮮当局は包括的調査の中止と特別調査委員会の解体を宣言しました。

北朝鮮の人権状況に関する 国連の報告と決議

2014年2月に公表された「北朝鮮における人権に関する国連調査委員会」の最終報告書は、同国による拉致事案の被害者の出身国が日本、韓国、レバノン、タイ、マレーシア、中国等10カ国以上に及ぶと指摘し、拉致被

害者の家族と出身国に被害者に関する十分な情報を提供し、生存している被害者及びその子孫を即時に出身国に帰国させるよう強く勧告しました。今年3月、国連人権理事会は、14年連続で北朝鮮人権状況決議(決議番号46/17)を採択しましたが、同国に対する勧告内容の一つに拉致被害者の即時帰国を含む強制失踪問題の解決のためにあらゆる措置をとることを含めました。同様の決議案は今年12月の国連総会本会議で審議される予定です。

御家族の再会を

2020年2月有本嘉代子さんが有本恵子さんとの再会の願いを果たすことなくご逝去されました。御家族が再会を果たすには、拉致問題はもはや一刻の猶予もない問題となっております。拉致被害者の即時帰国と拉致問題の早急な解決を求める一人ひとりの声をさらに広げることが重要になっていきます。

県警からのお知らせ



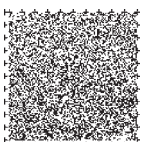
兵庫県警察では、北朝鮮当局による「拉致被害者」の有本恵子さんと田中美さんに関する情報や、「拉致の可能性を排除できない行方不明者」の方々に関する情報提供を求めています。お心当たりのある方は、兵庫県警察本部外事課まで情報をお寄せください。皆様のご協力をお願いします。詳しくは、兵庫県警察ホームページをご覧ください。

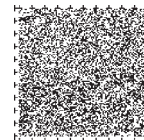
■兵庫県警察本部外事課

代表電話 **078(341)7441**

詳しくは、**兵庫県警察拉致問題**

検索





12月4日~10日は

人権週間です!

みんなで人権を考えよう



「人権のつどい」を YouTube にてライブ配信を行います。

日時 12月2日(木) 14:15~(人権講演会 15:15~16:15)

視聴方法 YouTube「兵庫県人権啓発協会」チャンネルにて視聴できます。

YouTube兵庫県人権啓発協会

検索



©INAC KOBE LEONESSA



わたしたちも
“人権文化をすすめる
県民運動”を応援
しています!



©阪神タイガース



のじぎく文芸賞の入賞者が決定

令和3年度ののじぎく文芸賞には、1,680編(一般の部 398編、学齢児童生徒の部 1,282編)の応募がありました。審査の結果、下記の通り入賞者が決定しました。12月2日(木)の「人権のつどい」(14:15~兵庫県公館)で表彰式を行います。作品の一部を本誌で紹介するほか、最優秀・優秀作品は当協会のホームページにも掲載します。

賞名	部門	部	作者名(敬称略)	作品名
最優秀賞	小説		上松 敏治	ゆうやとだいき
	随想		わんにゃん	人生にあってはならないこと
	詩		後藤 益雄	雨の交差点
	創作童話		原口 来瞳	歩みだせば、きっと
優秀賞	小説	一般	浜田 加代子	前歯とタイガース
		学齢	吉延 稔	私の中に咲くさくら
	随想	一般	近藤 音花	私だからできること
		学齢	山下 惇斗	差別のない社会へ
	詩	一般	千 春	あなたへ
		学齢	青木 萌結	ころも
	創作童話	一般	阿江 美穂	赤いかさ
		学齢	該当者なし	

*学齢 = 学齢児童生徒(中学生以下)

「拉致問題を考える国民のつどい in 兵庫・神戸」のご案内

YouTube 拉致問題対策本部公式動画チャンネルでインターネット配信を行います。下記のURLからご視聴できます。

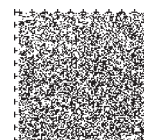
■配信日時: 令和3年12月18日(土) 14:00~16:00 (ライブ配信)

拉致問題対策本部 検索 <https://www.youtube.com/c/rachitaichannel>

■主催: 政府拉致問題対策本部・兵庫県・神戸市 ■会場: 兵庫県公館

●内容: 有本恵子さん等拉致被害者ご家族・特定失踪者ご家族の訴え
講演「拉致問題はなぜ解決しないのか」(龍谷大学 教授 李 相哲 氏)

●お問合せ 兵庫県健康福祉部社会福祉局 人権推進課 TEL 078-362-3229 FAX 078-362-4266
※新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況によっては、開催を中止することがあります。



「きずな」は、協会ホームページからもご覧になれます。

兵庫県人権啓発協会

検索



(公財)兵庫県人権啓発協会
〒650-0003 神戸市中央区山本通4-22-15 県立のじぎく会館内
TEL 078(242)5355 FAX 078(242)5360
info@hyogo-jinken.or.jp